



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

「なに」ごとの おはしま
すかは 知らねども かつ
じけなきに 涙こぼるる」。平安末期、名だたる武士の身分を捨て出家し、全国を行脚し生きた西行が、伊勢参りの折に詠んだこの歌は、日本人の宗教観を表すものとして、よく知られている。森羅万象、全てのものに宿る、なに事(者、物ではない)かを感じ取り、その前に手を合わせ、涙をこぼす。これが、八百万の神を拜む、私たち日本人の素朴な信仰心と言ってもおかしくないだろう。だがそれは、いわゆるクリスマスには教会へ行き、お正月には神社へ参拝し、お盆にはお寺へお墓参りに行くという宗教的無節操とは異なるものだと、私は思っている。西行が、かたじけなさ、涙こぼしたものは、彼がまさに自分の人生を賭け、探求し会得した境地なのではないだろうか。自分では一歩も踏み出すこともなく、そびえる山をただ見上げ「どの道を行っても、結局、頂上は同じよ」などとしたり顔で口にするのは全く違うのだ。

人々は、皆何か新しい教えはないかと、まるで退屈しのぎにこのパウロの言葉に耳を傾けた。そこで、彼は、彼らに向かつてこう切り出す。「アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあつい方であることをわたしは認めます。道を歩きながら、あなたがたが拜むいろいろなものを見てみると『知られざる神』と刻まれている祭壇さえ見

瞑想

神は私たち一人一人から
遠く離れてはおられません。

主幹牧師 榎本 恵
使徒17:27

を教えようというパウロの言葉は、興味を惹くものであったに違いない。パウロはそこで、全てのものの創り主である神を証言する。人間がつくった神ではなく、人間をつくった神。それは、「手で造った神殿などにはお住みにならず」(24)、人の手によって仕え方も必要もない(25)方であり、「わたしは一人一人から遠く離れてはお

ことにしよう」(32)と去っていったのだ。「知らずに拜んでる神を教えよう」と挑んだパウロの言葉は、彼らの知的好奇心を大いに刺激した。けれどもパウロの語った十字架の福音は彼らからその興味を失わせたのだ。このことは、「なに」ごとのおはしますかは知らねども」という独特の宗教観を持つ日本人への福音宣教にとっても、大事な示唆を与えてくれる。そこには、理性をもって説き伏せようとしても、超えることのできない一線があるからだ。パウロ自身も、コリントの信徒への手紙の中で、次のように語る。「わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、『霊』と力の証明によるものでした。それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした」(1コリント2:4-5)。

友よ、「主は呼ぶ人すべてに近く」(詩145:18)おわしますのだ。しかし、それはどんなに言葉を尽くしても、理性では知ることができない。ただ聖霊の働きをもってしか、知ることができないのだ。私たちは、この「なに」ごの「かを知るもの」となるうよ。

修道場アシュラムに参加して

齋藤 篤

5月20、22日、シメオン黙想の家を会場とする、記念すべき第1回の「修道場アシュラム」への参加が許されて、充実した3日間を過ごすことができました。このアシュラムを知ったのは榎本恵牧師のFacebookページでしたが、それ以前から、私が現在編集の責任を担っている『日々の聖句（ローズンゲン）』を通して榎本先生とSNS上で交流をいただいています。なので、この機会には非聖書の言葉にどっぷりと浸かったひとときを過ごしたいと強く願わされ、申し込みをいたしました。

東京は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言下ということもあ

り、そのような所からの参加でも大丈夫なのだろうかと心配もしましたが、榎本先生のウエルカムの言葉を受けてそれなら遠慮なくと、梅雨入りした近江八幡へ向かいました。

まさに修道場という言葉がぴったりと来るシメオン黙想の家。私が滞在する部屋には、ベッド・机・揺り椅子、そして空間を包む静けさ以外のものは一切ありません。聖書の言葉に没頭できる最高の空間がここにありました。ここで、4人のファミリーとともに御言葉を真ん中にしていただいたものを交わす時間は、魂と心身を癒すひとときでもありました。とは言うまでもありません。

合間に近江八幡の街



センター聖書教室。修道場アシュラム2日目に。(中列右から3人目 齋藤師)

並みを楽しみむひと時、御言葉の風呂に浸かったような気持ちに追いついた。打ちをかけるように、近隣の温泉に連れて行ってもらって身体がほぐされていくのも実感しました。準備された心づくしの食事、そして毎朝オンラインとの併用でおこなわれる早天祈祷会。どれをとっても二度三度と経験したくなる、そんなひと時でした。

私は、今回の参加を通して強く感じたこと

があります。このシメオン黙想の家が今後、御言葉を中心とした素敵な交わりの場としてさらに用いられていくならば、それがキリスト教のなかですら閉塞感を思わせるような社会の大きな祝福へとつながるのではないかと

ということですが。少々大げさな言い方かもしれませんが本気でそう思います。そう思わせるだけの環境がここにはあります。祈りつつ、次の訪問も楽しみにしたいと思います。(日本基督教団 深沢教会)

早天祈祷会での祈り

池谷 治朗

今日もあなたがこうして導き支えてくださったことに感謝いたします。私たちは、本当に自分では立ち上がれない。あなたが立ち上がらせてくださって

ださいますように。私たちが苦悩の中にある時、また苦しい時を覚えてくださり、そして私たちが立ち上がらせてくださいますように。

いることに感謝いたします。私たちがどんなに頑張ったとしても自分の自力では限界があります。神様どうぞ上からの力を与え、そしてあなたが共にいてく

今日も皆様とともに早天を守り、導き支えられますことを感謝いたします。どうかあなたと共に歩み出すことができますように。このアシュラムセンターの

アシュラムセンター Zoom 聖書教室開催のご案内

主の平和

Zoom 聖書教室、今年度後半のお知らせです。段々と、Zoom での聖書の分かち合いが定着してきました。今年度後半より、池谷治朗さんを中心とした、祈りの会を行います。「美しい足の会」です。み言葉を宣べ伝えるものの足は美しいものです。しかしそれは見目形が美しいという意味ではないでしょう。むしろ、旧約の預言者たちのあしも、主イエスの足も、パウロの足も、みな傷つき、傷んでいました。しかし、そこに本当の美しさがあるのです。そんな足を持つ人たちと、それぞれの悩みや苦しみ、悲しみ、喜びを持ち寄り、まさに祈りに徹する会です。どうぞ、どの会にご参加いただいても結構です。よろしくお願いたします。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵

記

■2021年8月から2022年1月までの6回
1)Zoom 聖書教室 毎月第1火曜日

- 2) 聖書と学ぶ会 毎月第2土曜日
 - 3) 箴言に学ぶ会 毎月第3月曜日
 - 4) 美しい足の会 毎月第4水曜日
- いずれもセンター行事などの都合により変更することがあります。

■参加献金

月額 2000 円 / その場では献金をお願いできませんので、申し訳ございませんが、6ヶ月分(12000円)前納で、お振込ください。振り込みを済ませていただいた時点で、参加申し込みとさせていただきます。

一振込先

滋賀銀行 八幡支店(312) 普通 410746

■申し込み期限

2021年7月31日までに、アシュラムセンターホームページからお申し込みください。

新規参加の方もお待ちしております。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵

Zoom 聖書教室「美しい足の会」8月開設、かないますように!!

「皆様、お祈り感謝します。痛みはありますが、心は平安です。」(早天祈祷会横になりながらズーム参加)



2021年度 アシュラムの天上の友を憶える日礼拝

イエスは主なり

今年も、この季節がやってきました。昨年度、コロナ禍の中で行われた「天上の友を憶える日礼拝」は、今年も同様に、密を避け、インターネットを通して行われます。なかなか、顔と顔を合わせ礼拝をとともにすることが叶いませんが、私たちの天上の友を憶える時、それは同じであると思っています。

「天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました」(コロサイ1:16)。死も生も、悲しみも喜びも、このコロナでさえも、御子のために、すなわち主の栄光を現すためにある。なかなか、簡単には口にすることができませんが、これが真実なのです。

この困難の時代にあって、また理不尽な世界にあって、しかしそこに主の栄光が必ず現れることを信じ、今年もともに、祈りを合わせ、礼拝の時を持ちましょう。

YouTubeでの参加もよろしくお願いいたします。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵

2021年 天上の友を憶える日礼拝
(ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝とともに)

日時：2021年7月18日(日) pm 5:00~

場所：アシュラムセンター

「ちいろば牧師記念チャペル」

YouTube ちいろばチャンネルで配信いたします。



故人氏名 (敬称略)	召天日	召天時 在住地
坂井 菊海		広島
川口卯満治	2019.01.	愛媛
相浦 和生	2020.02.03	兵庫
國吉 勝子	2020.04.	沖縄
渡辺 晴季	2020.06.06	東京
岸本恵美子	2020.06.20	愛知
荒木 道子		兵庫
松村 菊枝		和歌山
村瀬 俊夫	2020.08.18	東京
相良 英子	2020.11.13	兵庫
田中 寿子	2020.11.23	滋賀
渡辺不二夫	2020.12.08	埼玉
石崎 功一	2020.12.14	新潟
有賀 芳子	2020.12.18	長野
三好 万亀	2020.クリスマス	広島
久保内政春		高知
後藤 梅子		神奈川
高山 弘美		沖縄
矢崎 邦彦	2021.01.28	大阪
菅根 ヨシ	2021.03.30	東京
西本知津子	2021.03.31	東京
三浦美子雄	2021.05.12	茨城

瞬きの詩人

水野源三の世界 43

三浦綾子記念文学館特別研究員
森下 辰衛

キリストのみ愛に触れたその時に 1977

キリストのみ愛に触れたその時に
キリストのみ愛に触れたその時に
私の心は変わりました
憎しみも恨みも
霧のように消えさりました

キリストのみ愛に触れたその時に
キリストのみ愛に触れたその時に
私の心は変わりました
悲しみも不安も
雲のように消えさりました

キリストのみ愛に触れたその時に
キリストのみ愛に触れたその時に
私の心は変わりました
喜びと希望の
朝の光がさして来ました

この詩は歌うための詩、讃美歌の歌詞として作られたものでしょう。

各連三行目の「私の心は変わりました」と歌う、天に向かってなされる、その感謝と讃美の叫びの声の明るさが、この歌の中心です。

人の心が変わるといふことほど難しいことはなく、だから人の心が変わるといふことほどの奇蹟は他にありません。それは、自分の身に実際に起こった、驚くべき、奇蹟の体験でした。「私の心」が「変わりました」といふ、信じられない事件。その圧倒的な愛の体験の証言と喜び。この讃美歌では、この救いの本質をそのように表現しているのです。

キリストのみ愛に触れたその時に
キリストのみ愛に触れたその時に
何かに触れたという本質的な経験を、人はどのようにして、経験するのでしょうか？

「キリストのみ愛に触れ」ること。それは、比喩でなければ不可能なことです。でも、何よりも確かな経験なのでしょう。

キリストのみ愛に触れたその時に
キリストのみ愛に触れたその時に

このリフレインに、その経験の真実さが表されています。リフレインはいつも、事件と確認、出会いと受容です。キリストの愛と源三さんが触れたのは、キリストの愛が近づいて来てくださったからなのか、源三さんの手が伸ばされたからなのか。いずれにしても、触れたときに、その瞬間に、「私の心は変わりました」。その経験それ自体が、確かな証拠であり、証言となるような、否定できない経験があるのです。

憎しみと恨みがあったのです。確かにこの私の心の中に、それはあったのです。そのゆえに苦しみ悶えていたのです。それが、その瞬間、霧のように消え去ったのです。霧が消え去るときに、明るい空が現れるように、源三さんの目はそのとき何を見たのでしょうか。

悲しみと不安があったことも、事実なのです。確かにこの私の胸のうちに、それはあって、いっぱい広がる重い雲のように、明日の希望を塞いでいたのです。なのに、そのとき、雲が消え去れば、太陽が現れるように、喜びと希望の朝の光が入ってきたのです。暗闇にうずくまり、膝を抱えて、打ちひしがれていた、その心に、それは来たのです。

触れること — 目でなく、耳でなく、見るのではなく、聴くのではなく、このからだの、指の、頬の、肌で、触れること。それは、知的なものでなく、体で体験することであり、普通の意味で知ることではなく、出会うこと、触れあうこと、抱きしめられることなのです。そんな圧倒的な愛の経験を否定することなど、どうしても出来ないほどの、圧倒的な、すべてを変えて、クリアーにしてしまう愛だったのです。青空へと、天へと突き抜けてしまう、愛の経験であったのです。

シメオン黙想の家 完成感謝メッセージ
あふれる程の祝福が、あふれる程の喜びが、天から降って来ますように。笑顔と讃美の場となりますように。

渡辺邦子(北海道)

「誕生日カード感謝のお便り」
「老いの坂 祈りの友に支えられ 驚のつばさに 夢見る水仙花」

藤本岩夫 94才 藤本キク江 93才 (愛知)

私は何故キリスト教を信ずるか④

スタンレー・ジョーンズ (アシュラム創始者)

イエス・キリストはよみがえり永遠に生き給う。この事實をそのまま受け入れさえすれば我々と共にいたまうのだ。一切をキリストに委ねば、力を與え給うのだ。又キリストと共に生活が出来る恩寵にあずかることが出来るのである。私がキリスト教を信ずる最大の理由はこの點にある。(講演要旨・文責在記者)

☆講演が終るや、決心カードが廻わされ、一三六名の決心者が與えられ、ジョーンズ博士の祈りの後、これらの新しい決心者にメッセージを述べられた。

メッセージ

1 自分の心を正直に反省し、キリストの認めないものを一切捨てること。

2 キリストを救主と信じ、全くまかせ切ること。

3 朝早く起き、拾五分間聖書を読み、祈禱の時間をすること。

4 自分の経験したことを人に語る。語れば語る程、交わりが深くなる。

5 日本の建設のために、キリストの愛により奉仕する者とされる。かくして生活が力に満ちたものとなる。そのために祈ろう。

・附記・

去る一月三十日再び来朝された米國が生んだ世界的な傳道者であり、印度途上の基督、山上の基督の著作にて有名なスタンレー・ジョーンズ博士が、三月二十日、來幡、近江兄弟社の教育會館にて講演をされました。

七十の老齡にも拘らず清澄な瞳、力強い語調、殊に安村三郎先生の全く呼吸の合った通譯により寔にめぐまれた集會を持ちました。五百餘の會衆はこの偉大なる傳道者のいぶきに直

接觸れ、この日一三六名の新たな決心者が與えられました。決心者カードが集められる時など、壇上より心を配られ、一人でも多く決心者が與えられるよう係の者を誘導しておられました。名前の書かれた紙片が集められた時、一枚々々手で受けとり、机上に置き、

「神様この時が、一生に於ける決断の日となりますように。どうぞこの時を祝福してください。下さいますように」との心からなる祈りを捧げられました。紙幅の都合にて、講演の概要を記し大傳道者の信念を御紹介いたします。(終)



松山アシュラムに來られたスタンレージョーンズ博士。(前列ほぼ中央。師の右2人目が保郎師。)

あ と が き

どうやら東京オリンピックは、開催へと突き進んでいくようだ。「復興五輪」「コロナに打ち勝った証の五輪」そして「世界の団結の象徴としての五輪」と、次から次によくスローガンが思いつくものだと、半ば呆れてしまいそうになるが、国民の気持ちは、とっくに離れていってしまったのかもしれない。

アシュラムセンターも、この一年間は、なかなか思うままに進むことができなかった。しかし、そんな中でも、地域アシュラムのいくつかは開催され、心配されたコロナ感染も、守りのうちにあったことを心から感謝している。確かにこの疫病によって、多くの命が奪われ、悲しみや苦しみを味わった方の大勢おられることを、私たちは知っている。そのような中で集會の開催には、色々な意見のあることも十分承知している。それでも尚、共に祈り、共に言葉に聴き、わかち合いたいという願いを無視することはできないと、私は思っている。もちろん、緊急事態宣言下や蔓延防止等重点措置下にある地域では、その解除が出来るまでは、私自身行くことを自重している。ただそれ以外の地域に関しては、奉仕の招きをいただいたところへは喜んで行くつもりだ。もちろん細心の注意を払って。どうか、この疫病が終わり、マスクなしで、人と人とがなんの隔りもなく語り合える日が来ますように。オリンピックも大事だが、1日も早い、信仰の友との交わりの時が回復しますように。(恵)

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり!

7月の聖書教室など		【主な問い合わせ先】 0748-33-4030 アシュラムセンター
2(金)	阪神ミニアシュラム (ZOOM PM1:30・会場の都合により)	
6(火)	ZOOM聖書教室 (ZOOM AM10:30、PM7:30)	
10(土)	聖書と学ぶ会 (ZOOM PM8:00)	
16(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)	
18(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝・天上の友を憶える日礼拝 (PM5:00)	
19(月)	箴言に学ぶ会 (ZOOM AM10:30、PM7:30)	
20(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)	
21(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)	
26(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)	
27(火)	東京聖書教室 (ZOOM AM10:30 会場未定のため)	

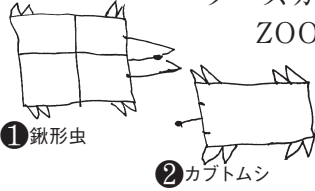
7月のアシュラムなど		
10(土)	第2回 四国1日アシュラム (日本基督教団三島真光教会) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
15(木) ~ 17(土)	修道場アシュラム③ (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
22(木)	第24回 福岡1日アシュラム (日本基督教団福岡中部教会) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

8月のアシュラム予定	
19(木) ~ 21(土)	常任運営委員のための修道場アシュラム

9月以降のアシュラム予定	
9月16(木)~18(土)	修道場アシュラム④ (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家)
10月21(木)~23(土)	加太アシュラム
10月21(木)~23(土)	修道場アシュラム⑤ (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家)
10月28(木)~29(金)	日光オリーブの里アシュラム

みことば

ノースカロライナ大学生
ZOOM聖書と学ぶ会
榎本 空



~問題~
① + ② = ?
何と読む?
答えは次号で

そして、言葉であれ行いであれ、あなたがすることは何でも、すべて主イエスの名によって行い。イエスによって父なる神に感謝しなさい。
(コロサイの信徒への手紙3:17)

すべてを主イエスの名によって行うこと、それは、この頑なな自分という座を明け渡し、そこにイエスを迎えるということ。自分の言葉、自分の行い、そんなものは忘れてしまって、自分の全てが神にすでに、今も、抱かれているのだと信頼すること。なんと難しいことだろうか。自分という乗り越え難い壁に、誰もが絶望したことがあるに違いない。何かの成功に自分の手柄を誇り、失敗には一丁前に絶望する。自分を巢食う未知なる病を恐れ、不透明な将来に暗澹の気持ちになる。そんな時、神は彼方に遠く思え、自分が私を覆い尽くしてしまう。これが私たちの姿であるとするならば、そんな神との合一は、厳格な訓練を経た一握りの霊的エリートにのみ取り置かれた秘儀なのであろうか。そうではないだろう。日常の悩みの中でふと天を仰ぐとき、眠れぬ夜に一筋、星屑が落ちるのを見るとき、私たちは、ああ、今ここに働いているのは、私ではなくて神なのだ、理屈ではなく、思い起こす。そんな時、逆説的ではあるが、私たちは自分自身へと近づくのかもしれない。自分を忘れて、自分を思い出すのだ。木は、どこまでも木であることによって聖なるものとなる、トーマス・マートンの言葉である。
(次号につづく)



60歳、感謝!!

早天祈祷会後、Zoom参加の池谷兄、今泉兄に話しかける和子母と、正高兄(新潟からしばらくアシュラムセンターに)



修道場アシュラム、6月も無事開かれ感謝です。(2日目。聖書教室ご参加の方々)

